



但馬やまびこの郷
平成28年9月
第40号

不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/
E-Mail: Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

子どもの心にたくさん^{マル}○をつけませんか

但馬やまびこの郷で大切にしていることの1つに「ほめる、認める」があります。当所にやってくる子どもたちは自分に自信がなく、自己肯定感の低い子が多いと感じています。そんな子どもたちも「ほめる・認める」ことで心にエネルギーがたまり、「何かしたい」という気持ちが生まれてきます。子どもの心にたくさん^{マル}○をつけてみませんか？

ほめ方には2つある



1つはDoing（行動をほめること）。その子がやり遂げたこと、努力したこと、誰かのために役立てたことに対し、認めて^{マル}○をつけてあげることです。当所では、その子の興味や関心、特技に目を向けて心のエネルギーを高めます。そして、ちょっと頑張ればできそうな小さな目標と一緒に考え、達成すれば大いにほめます。小さな成功体験を積み重ねることで子どもたちの自信につなげています。

もう1つはBeing（存在をほめること）。その子の存在自体をほめる、生きているだけで感謝することです。子どもは誰かに「存在を認められている」と思えるだけで「自分は価値ある人間だ」と自己存在感を高めます。自分には価値があると思えた時に勇気が出てきます。DoingもBeingも、どちらも大切ですが、家庭においてはBeingがより大切です。なぜなら「あなたがいてくれるだけでうれしい。ありがとう」と言ってくれる人は家族の他にめったにいないからです。

行動をほめる Doing

「よくがんばったね」 「上手にできたね」
「足が速いね」 「丁寧にやれたね」
「よくやった、よくやった」

自分がしている行動がいいことだと自覚し「これからも続けていこう」と感じる。

存在をほめる Being

「一緒にいてくれるだけで楽しいよ」
「あなたが大好きだよ」「お母さんうれしいな」
「笑顔が見られてうれしいな」「ありがとう」

自分は価値ある存在だと思える。生きることが楽しく人生に充足感を味わえる。

不思議なもので、他人を悪く言う言葉は苦労もなく出てきます。でも「いいところを言おう」と思うとなかなか難しいものです。子どもをほめるということは、甘やかすという意味ではなく「子どもを認める」ということです。「ありがとう」「それでいいよ」と、子どもの心に^{マル}○をつけてあげ、心のエネルギーをチャージしていきませんか。

※参考『わが子の「やる気スイッチ」はいつ入る?』（菅野 純 著・主婦の友社）

まこさんからのメッセージ

すれちがう心たち

兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐藤 眞子



「ママ、さかあがりができただよよう！」とうれしさを全身で表現しながら、母親にとびついてきた1年生くらいの女の子に出会いました。小学校近くの公園でたまたま見かけた光景です。ママも喜んで子どもを受けとめられるのだろうと思って見ていましたが、予想に反して、聞こえてきた言葉は、「なに！そんなにスカートを汚して、どこで遊んでいたの！」という母親の怒りの言葉でした。女の子は、急に悲しそうな顔になり、しょんぼり黙りこんでしまいました。

響きあいたい心たち

親子のかかわり方だけとは限りませんが、人と人との関係は「一瞬一瞬が勝負」というところがあります。「しまった、あんなこと言わなきゃよかった」と思っても、もう取り返しがつかないってことって、あるのではないのでしょうか。親と子はとりわけ一緒にいる時間が長く、心の交流も濃密です。そうであるからこそ、互いにかけてあげのない存在になっていくのですが、ときには（いいえ、たびたびでしょうか）心はすれちがい、互いに悲しい思いをしてしまいます。



ほめてもらおうと思って「国語のテスト、80点だった」と見せたのに、「ここができていたら90点になったのに、残念ね」と言われたり、励ましてほしくて「バレーボールの試合、1回戦で負けてしまった」と言ったのに、「あんな練習ぶりじゃ勝てるわけないでしょう」とお説教じみたことを言われたり・・・なんてこともよくあるように思います。ほめてもらいたくて、あるいは慰めてもらいたくて、親の傍に行ったのに、叱責をかってしまう。こうしたすれちがいは毎日、ほんの少しずつなのですが、雪が降り積もるように、少しずつ、少しずつ、積もってゆき、やがて心の扉が「すれちがい雪」で閉ざされてしまうこともあります。

「いいの、どうせわかってもらえないから」とか、「わかろうとしてくれないから」といった言葉は、「本当はもっとわかってほしい」という気持ちの裏返しの表現なのだと思います。「さかあがり」が初めてできた」という人生のただ一度の瞬間に、その感激を共有できるのは、親子として「一生にただ一度」のことです。でもこの感激の一瞬を、残念ながらこの親子は共有できなかった。心がすれちがってしまったのです。

子どもの気持ちを感じ取り、「すごい！」「ヤッター！」と一緒に喜び合うとか、「悲しかったね」「残念だったよね」と共感するというようなことが、親子間の日常生活でもっともっとできるいいのですが、親も生活に追われていて、ゆっくりした気持ちをもって、子どもを受けとめることができないのが、現実かもしれません。

あわてんといて

谷川俊太郎さんの詩に「あわてなさんな」という詩があります。ちょっと長くなりますが、引用してみます。

あわてなさんな

花をあげようと父親は云う
種子が欲しいんだと息子は呟く
翼をあげるわと母親は云う
空が要るんだと息子は目を伏せる
道を覚えろと父親が云う
地図は要らないと息子がいなす
夢を見ないでと母親が云う
目をさせよと息子がかみつく
不幸にしないでと母親は泣く
どうする気だと父親が叫ぶ
あわてなさんなと息子は笑う
父親の若い頃そっくりの笑顔で

『魂のいちばんおもしろいところ』

1990, サンリオ

「種子がほしい子ども」「空が要る子ども」に、親は「花」や「翼」をあげようとします。ここでも心はすれちがっています。子どもが本当にほしいものは何なのか。どんな気持ちをもって日々を過ごしているのか。親がよかれと思って差し出すものを、子どもが喜んで受け取ってくれるとは限りません。

「不幸にしないで」「どうする気だ」と泣き叫ぶ親たちに、「あわてなさんな」と子どもは思っているかもしれません。関西弁で言うと、「あわてんといて」です。子どもと大人の間には精神テンポは同じではありません。子ども時代は大人とちがって、ゆっくり時間が過ぎていきます。自分が自分らしくなっていくには時間がかかります。子どもが望んでいるのは、自分を受けとめてくれる親、見守ってくれる親、温めてくれる親。子どもは自分のペースで生きていこうとしています。親にだってそういう時代があったはずですが……。

本当は響きあい、わかりあいたいのに、すれちがってしまう心たち。わかりあうには、ゆっくりした時間が必要なのでしょう。

でも、もし子どもが「時間がないんだ」とあわてているようならば、その時は、親が伝えてあげましょう。「時間はたっぷりあるから、あわてなくていいよ」と。そしてそれから、「自分の翼で、あなたは、あなたの空を飛びなさい」と。

さて、冒頭にあげた親子のその後かというと、仲良く手をつないで、おうちに帰って行きました。願わくは、この親子に「心のすれちがい雪」が、降り積もることがありませんように。

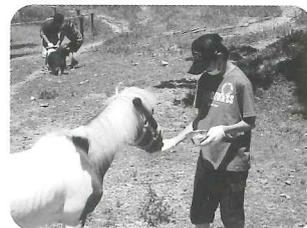


地域やまびこ教室に 参加してみませんか

地域やまびこ教室では、但馬やまびこの郷のスタッフがみなさんの街にでかけ、当所で実際に行っている活動の一部を体験していただきます。



きっと新しい発見や出会いがあります。いろんな人と楽しく活動してみませんか。当所のホームページで開催要項・申込書等をダウンロードできますので、ご希望の方はお申し込み下さい。



第5回 10月11日(火)・12日(水) 国立淡路青少年交流の家(南あわじ市) 【釣り、スポーツ体験、野外炊飯など】

第6回 11月 2日(水) 県立甲山森林公園(西宮市) 【自然とふれ合い体験、スポーツ体験、散策など】

※第1回、第2回、第3回、第4回は終了しました。

参加者からの声

第1回(7/22)、第2回(8/8)の地域やまびこ教室で
いただいた感想をご紹介します。

【子どもたちの声】

- ・初めて出会う子どもも思ったより明るくて話しやすかったので、元気を分けてもらった感じがします。
- ・みんなとふれあえたことが楽しかった。
- ・休みたいときは休み、遊びたいときは遊べる。無理せず活動できることがとても嬉しかった。
- ・最初は不安だったけど、久しぶりに同年代の子と遊んだので楽しかった。
- ・今回参加しただけで友達が増えた気がします。



【保護者の声】

- ・初めてで何を話せば良いか分からなかったですが、みなさんの話を聞き、すごく気持ちが楽になりました。
- ・親も子どもと一緒にゲームをしたのが楽しかったです。保護者交流会も経験者の貴重なお話が聞けて良かったです。
- ・初参加でしたが、是非子どもに体験させてあげたいと思いましたし、こんな素敵な機会があることを多くの人に知ってもらえたらいいな、と思いました。
- ・子どもの楽しそうな姿が見られてよかったです。
- ・いつもと違った環境にもすぐにとけ込め、のびのびと過ごせました。
- ・保護者交流会で保護者の方と話ができて、悩んでいるのは自分だけではないということ、子どもは日々成長していくことに今一度気づくことができよかったです。

